

修学旅行について

本校の修学旅行について最も古い記録は、大正2年の「十月廿二日、全校生徒三泊四日間の予定を以て矢島町、象潟町方面に修学旅行を挙す」（「白玲瓏」第七号）です。

- 10月22日 午前7時50分：学校発→前郷・西滝沢→矢島
- 23日 矢島→（山越え）→金浦→前川→象潟
- 24日 埴満寺、八十八瀧、九十九社を見学→金浦→平沢
- 25日 平沢→午後：学校着

すべて徒歩による移動で、「修学旅行」よりは「行軍」という言葉がしっくりきますが、前述の「白玲瓏」には「僅か三泊の旅に於て余等は多大の知識を得又多少世間と云ふものの表面を見たり」という生徒の感想が見られます。

翌年の大正3年は学年によってコースが分かれます。

- （第1学年）象潟方面：1泊
- （第2学年）秋田方面：2泊
- （第3・4学年）小坂方面：5泊
- （第5学年）東京方面：6泊

奥羽本線は明治38年に全線開通していますが、羽越線の秋田県内分はこの時点でまだ着工されておられません。第1学年はすべて徒歩、第2学年以上も本荘－秋田間は徒歩で移動する必要がありました。

大正4年の行程は、「白玲瓏」第九号にさらに詳細に記録されています。

（第1学年：仁賀保方面）

- 10月4日 午前6時半：学校発→埴満寺を見学→午後4時半：宿舎着
- 5日 午前6時半：宿舎発→奈曽の白滝着、水力発電所等見学→須賀神社境内で昼食→午後6時半：学校着

（第2学年：秋田、黒川方面）

- 10月2日 午後7時：学校発
- 3日 午前5時半：秋田市（宿舎）着 武術大会を参観
- 4日 黒川油田、鉄道院鉄工場（現：秋田車輛センター）、第十七連隊、鉾山専門学校（現：秋田大学理工学部・国際資源学部）を見学
- 5日 午前7時：秋田発→午後8時：学校着

（第3学年：小坂、十和田方面）

- 10月2日 午後7時：学校発
- 3日 午前5時半：秋田市（宿舎）着 武術大会を参観
※武術大会参観を希望しない者は
3日午前5時：学校発→午後5時：秋田市（宿舎）着
- 4日 午前5時7分：秋田駅発→午前11時20分：小坂駅着→宿舎
正午：宿舎発→午後6時半：十和田湖着
- 5日 鱒の孵化養殖場を見学、十和田湖を汽船で遊覧
午前9時半：十和田湖発→大湯温泉で入浴→午後6時：小坂着
- 6日 午前中：小坂鉾山を見学
午後1時50分：小坂駅発→午後7時25分：秋田駅着→宿舎
- 7日 午前6時半：秋田発→午後5時：学校着

(第4・5学年：日光・東京・鎌倉方面)

- 10月2日 午後7時：学校発
3日 午前5時半：秋田市着 武術大会を参観
※武術大会参観を希望しない者は
3日午前5時半：学校発→午後4時：秋田市着
午後11時55分：秋田駅発
4日 午後7時：上野駅着→宿舎
5日 上野動物園、帝室博物館（現：東京国立博物館）、皇居前広場 等を見学
日比谷公園で休憩後「愛宕山」「芝公園」の2班に分かれる
芝公園で合流後、高輪泉岳寺（赤穂浪士の墓）を見学
6日 旧制第一高校で校舎とX線の実験を見学
東京帝国大学で工学部教授による実験を見学し説明を受ける
靖国神社参拝後、遊就館（靖国神社境内の博物館）、乃木将軍邸を見学
7日 千住製絨所（官営の被服生地製造工場）見学 ※本校OBの技師が案内説明
汽船で隅田川下りの後、浅草公園見学
午後4時35分：東京駅発→午後6時：鎌倉駅着→宿舎
8日 （荒天のため午前中行動できず、旅程を1日延ばすことを決定）
午後から 龍口寺、長谷観音、鎌倉大仏、鶴ヶ丘八幡宮、
日旗神社、覇府趾、源頼朝の墓、鎌倉宮 を見学
午後6時20分：鎌倉駅発→上野駅→午後8時30分：宿舎
9日 午前5時20分：上野駅発→午前10時40分：日光駅着
旅程を1日延ばして余裕ができたので、中禅寺、華厳の滝へ
10日 日光東照宮、日光二荒山神社へ 午後0時30分：宇都宮駅発
11日 午前5時：秋田駅着 午前7時：秋田発→午後5時：学校着

当時はテレビ放送も（当然インターネットも）まだなく、絵や写真でしか見たことのない施設や文化財等を実際に自分の目で見るができる、ということは今とは比べものにならないほどの価値があったと思います。産業の実際や最新の学問に触れることのできる貴重な機会でもあり、まさに修学旅行の本質である「見聞を広める」ための旅行でありました。また、上記の第4・5学年が上野駅に到着した際には「卒業生其他生徒の親戚知己多数の出迎ありき。」と「白玲瓏」に記載があり、長時間かけて遠路はるばるやってくる修学旅行隊をゆかりの人々が暖かく出迎えてくれたようです。

大正5年に羽越線の秋田県内分の工事が始まり、大正9年に秋田―亀田間、大正11年に岩谷以南が開通します。移動時間の短縮に伴い、「仙台松島方面」「北海道方面」といったものが登場します。しかし、折渡トンネルが最後の難工事として残されており、大正12年に北海道方面の修学旅行に参加した第5学年の生徒は「白玲瓏」第十四号に次のような文章を寄せています。「(前略)七時四十分の岩谷行発車の汽笛は母校を後に憧憬の国北海道への旅をはじめてくれた。岩谷駅で下車し、一里余の峠をば亀田に向った。可成急な坂や暑い太陽、重いバスケットなど少なからず障碍になって呉れたが渡道の嬉しさ、案外容易に越すことが出来た。九時五十分、小さな汽車に積み込まれて又運び出された。(後略)」。羽越線の全面開通は、翌大正13年のことです。

(文責：校長 熊澤耕生)